

編集・発行所 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 1-2 研究社英語センタービル
(Email: ejimu@elsj.org 電話/FAX: 03-5261-1922
HP: <https://www.elsj.org>)
一般財団法人 日本英文学会 代表者 阿部 公彦

会長挨拶

去る 5 月 16 日 (土) と 17 日 (日) の 2 日間、第 98 回の全国大会が同志社大学今出川キャンパスにて開催されました。両日とも天候に恵まれ、各種委員会、事務局、開催支部、開催校、そしてもちろんシンポジウムや研究発表の発表者、講師、登壇者、司会者の方々の綿密な準備のおかげもあり、充実した成果発表、討議、交流を行うことができました。みなさまに感謝いたします。

特別企画では俵万智さんと渡辺祐真さんにご登壇いただき、「文学と言葉」というタイトルで対談をしていただきました。冒頭で話題になったのは、「卵ある? 事件」。俵さんがデバ地下で店員さんに「卵ありますか?」と訊いたところ、間髪入れず「ありません!」と返答されたことがあり、「卵のないデバ地下? あれは不思議だった。きっと何か裏があるはず」ということで、言葉探偵が始まったそうです。トークイベントでお客さんのご意見を募集したところ、「『卵』が『雨戸』と聞こえた」「『あまおう、ありますか?』と聞こえた」など、さまざまな説が出てきたそうです。

今回のイベントでは途中から竹村はるみさん(立命館大学)と横内一雄さん(関西学院大学)にも質問者として参加していただき、和やかかつ奥深い討議を行っていただきました。とりわけ興味深かったのは俵さんの短歌作品の英語

訳、中国語訳の比較で、訳者によって解釈が異なるだけでなく、作品ごとに流れる時間の翻訳方法もさまざまで、言葉と時間というテーマについて考えるきっかけとなりました。また、俵さんの短歌に特徴的な、ここぞというときの「キメのひとつ」の読み方や視点の設定など、翻訳を通してみると新しい特徴が浮かび上がり、長年、俵さんの作品を研究してこられた渡辺さんによる個別短歌の解釈をまじえながら探求は進みました。

途中、「短歌作品はいつ完成に至るか」といったことも話題にのぼりました。俵さんによれば、その秘密は「適度な濃度」とのこと。詰め込みすぎは禁物。もちろん、スカスカでもいけない。その案配が出来具合を決めるとのことでした。私たちも研究発表のとき、とかく内容詰め込み・てんこ盛り・すし詰め餃子のような原稿を用意しがちで、そうすると何を言っているのかわからない早口合戦のような発表となってしまいます。お二人による明瞭かつ刺激的な対話を聞きながら、「適度な濃度」という言葉を金言として胸に刻んだ次第です。

ところで対談の最中、「いったいなぜ、英文学会ではプログラムで『ウェップ』という用語をお使いになるのか? なぜ『ウェブ』ではないのか?」という問いもいただきました。まさに我が意を得たり。私も以前、ほかならぬニューズレターの原稿を点検していたとき「ウェップ」という語はややオールドファッションでは

「ございませんか？」と問題提起をしたことがあります。このとき、事務局からは「英文学会では伝統的に「ウェブ」でやっております。どのような原稿でも、「ウェブ」とあればただちに「ウェブ」と直します」との返答をいただき、「むむ」となったわけですが、そこで思い浮かんだのは、メール文面にいつも「ウェブ」と入れておられる某元会長のお顔でした。はは～ん、と思ったわけです。

今回、このような晴れの日でご指摘をうけたことを踏まえ、この「ウェブ問題」をどうするか、事務局の方々とも話し合いながら慎重に検討してまいりたいと思います。会員のみなさまにおかれましても、もしご意見などありましたら事務局までお寄せいただければ幸いです（新しく Google フォームを作成したりはしません）。

（阿部公彦）

理事会および評議員会議事録から

日本英文学会事務局を会議本部とするオンライン会議にて、2026 年 5 月 30 日に理事会および評議員会が開催されました。主要な議案は以下の通りです。

1. 2025 年度事業報告
2. 2025 年度編集委員会活動報告
3. 2025 年度大会準備委員会活動報告
4. 2025 年度決算報告
5. 2026 年度予算確認
6. 2027 年度大会開催校の決定
7. 2028 年度大会開催支部の確認
8. その他

*なお上記、事業報告、決算報告、予算、および 2026 年度事業計画は、詳細を学会ウェブサイト「情報公開」欄でご覧

いただけるようになっています。

「8. その他」の議案は以下の通りです。

第 98 回全国大会時の託児所支出ならびに託児室開設制度理事会事務局内規の改訂案について

物価高騰の現状に即し、託児所開設の際の学会支出の上限を増額する内規修正案を検討し、承認されました。

大会準備委員会からのお知らせ

◎委員の交代

本年 7 月 1 日をもって、大野美砂、川崎和基、小宮真樹子、福元広二、森下裕三の 5 氏（50 音順。以下同）が任期満了により退任しました。後任には、片見彰夫（青山学院大学）、高木真佐子（杏林大学）、高橋愛（大阪公立大学）、友田奈津子（関西外国語大学）、中村文紀（中央大学）の 5 氏が選出されました（任期は各委員とも 3 年）。委員長は下楠昌哉氏、副委員長は川崎明子氏です。

◎第 98 回大会の『大会 Proceedings』について

第 78 回大会から刊行が始まった『大会 Proceedings』ですが、2019 年度から冊子体での発行を廃止し、ウェブでのみ公開する電子版（PDF 版）へと移行いたしました。第 97 回大会に関しましては、研究発表 39 件（招待発表 8 件を含む）中 19 件（49%）、シンポジウム発表 50 件中 24 件（48%）、総発表数 89 件中 43 件（48%）の論文をお寄せいただきました。なお、『大会 Proceedings』に掲載される論文は、大会発表の長めの要約という性格のもので、それを大幅に加筆し別稿として『英文学研究』に投稿、もしくは新人賞に応募することが

認められています。

また『大会 Proceedings』の電子版（PDF 版）への移行に伴い、『支部大会 Proceedings』も各支部ウェブサイトで公開される電子版に移行いたしました。詳細は各支部の担当者にお問い合わせください。

◎第 98 回大会の開催形態およびアンケートについて

第 98 回大会は対面形式での開催となりました。会員外の方を含め、2 日間とも非常に多くの方にご参加いただきました。皆様には心より御礼申し上げます。Google Form を用いて実施したアンケートには 27 件の回答があり、開催校のご尽力に感謝する声が多く寄せられました。

◎第 99 回大会の開催日・開催校等

時 2027 年 5 月 29 日（土）、30 日（日）

所 愛知淑徳大学星が丘キャンパス（名古屋市千種区）

開催校委員 若山真幸（委員長）、太田直子、小沢茂、樗木勇作、笠井俊宏、中郷慶、二村慎一

支部委員 西山徹（中部支部長）、一ノ谷清美、松浦愛子、森敏郎（以上、名城大学）

愛知淑徳大学の先生方には大変なお仕事をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また全国大会担当支部である中部支部の方々にも心より御礼申し上げます。大会準備委員会としてもできるかぎりのバックアップを行いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎第 99 回大会のシンポジウム企画の予定

第 99 回大会で行われるシンポジウムの企画が下記のように内定しました（敬称略。タイトルの変更の可能性あり）。第 1～6 部門は大会第 1 日（5 月 29 日）、第 7～12 部門は第 2 日（同 30 日）にそれぞれ開催される予定です。

第 1 部門「テキストの受容と再編：初期近代イギリス文学におけるメディア・読者・実践（仮）」

司会・講師 笹川 渉（青山学院大学教授）
講師 井出 新（慶應義塾大学名誉教授）
講師 齊藤 美和（奈良女子大学教授）
講師 西川 健誠（神戸市外国語大学教授）

第 2 部門「ロマン主義的文学観の前史」

司会・講師 三原 穂（愛知県立大学教授）
講師 富樫 剛（フェリス女学院大学教授）
講師 佐藤 恵（東北福祉大学准教授）
講師 本多 まりえ（明治学院大学准教授）

第 3 部門「広がりゆく世界とテキスト——18 世紀から現代における異文化表象の可能性」

司会・講師 武田 将明（東京大学教授）
講師 落合 一樹（東京大学助教）
講師 中越 亜理紗（福岡大学講師）
講師 グレゴリー・ケズナジェット（法政大学准教授、作家）

第 4 部門「文学研究におけるエビデンスとは何か——ジェイムズ・ジョイスの場合」

司会・講師 田村 章（金城学院大学教授）
講師 道木 一弘（愛知教育大学名誉教授）
講師 山田 幸代（愛知淑徳大学非常勤講師）
講師 今関 裕太（名古屋大学准教授）

第5部門「初期印刷本と作品の変容（仮）」

司会・講師 向井 剛（福岡女子大学名誉教授）
講師 都地 沙央里（福岡女子大学講師）
講師 新居 達也（お茶の水女子大学助教）
講師 頼 順子（京都女子大学他非常勤講師）
コメンテーター 高橋 勇
（慶應義塾大学教授）

第6部門「極小主義研究の現在と展望（仮）」

司会・講師 菅野 悟（東京理科大学教授）
講師 石井 透（明治大学教授）
講師 戸塚 将（宮城教育大学准教授）
講師 荒野 章彦（三重大学特任講師）

第7部門「地形が書く文学——モノとしての地理、地理としてのテキスト」

司会・講師 高野 泰志（九州大学教授）
講師 伊藤 詔子（広島大学名誉教授）
講師 山本 洋平（明治大学教授）
講師 吉田 希依（熊本県立大学准教授）

第8部門「詩人たちの文学的・教育的交流——

Emily Dickinson, Marianne Moore, Adrienne Rich を中心に」

司会・講師 上野 葉子（活水女子大学教授）
講師 水口 小百合（江戸川大学准教授）
講師 山下 あや（愛知学院大学講師）

第9部門「アメリカ文学とテンポラル・ターン」

司会・講師 若林 麻希子（青山学院大学教授）
講師 佐久間 みかよ（学習院大学教授）
講師 貞廣 真紀（明治学院大学教授）
講師 上原 正博（専修大学教授）

第10部門「英語の文法変化——史的研究と

SLA 研究の視点から（仮）」

司会・講師 山村 崇斗（筑波大学助教）
講師 岩崎 宏之（宇都宮大学准教授）
講師 小野 雄一（筑波大学教授）

第11部門「インシリコ言語学の射程と展望（仮）」

司会・講師 大谷 直輝（東京外国語大学准教授）
講師 川崎 義史（東京大学准教授）
講師 高村 大也
（産業技術総合研究所人工知能研究センター研究チーム長）
講師 永田 亮（甲南大学准教授）
講師 朴 鍾閔
（NTT 株式会社コミュニケーション科学基礎研究所ポストドクトラル研究員）
講師 堀川 友慈
（NTT 株式会社コミュニケーション科学基礎研究所特別研究員）

第12部門「周縁・中間を書き足す英語教育史——日本英文学会英語教育部門編」

司会・講師 北 和文（東京理科大学教授）
講師 青田 庄真（茨城大学講師）
講師 久世 恭子（東洋大学教授）
講師 柁木 貴之（北海学園大学教授）

◎第99回大会招待発表

第99回大会の招待発表講師は次の各氏に内定しました（敬称略、50音順）。

石塚 久郎（専修大学教授）
佐々木 和貴（秋田大学名誉教授）
寺澤 盾（青山学院大学教授）
西谷 拓哉（神戸大学名誉教授）

深谷 素子（鶴見大学教授）
藤巻 明（立教大学教授）
松本 朗（上智大学教授）
吉川 史子（広島修道大学教授）

◎第99回大会の特別企画

第99回大会2日目（5月30日〔日〕）の午後には、大会準備委員会企画として、東雅夫氏（文芸評論家、アンソロジスト）と磯崎純一氏（元国書刊行会編集部編集長）にご対談いただく予定です。詳細は来春発行の『第99回大会資料』および学会ホームページに掲載いたします。どうぞご期待ください。

◎第99回大会研究発表の募集

第99回全国大会の研究発表を募集しております。学会ホームページ（<https://www.elsj.org>）上でご確認のうえ、奮ってご応募ください。サイト上のフォーマットを利用してウェブから直接応募することが可能ですので、どうぞご利用ください。詳しくは学会ホームページをご覧ください。応募の締め切りは11月1日（日）必着です。

◎シンポジアムのアイディア募集について

シンポジアムのテーマに関する提言は随時受け付けておりますので、事務局（etaikai@elsj.org）までお寄せください。ただし、提案者は参加することはできませんのでご注意ください。寄せられたアイディアはデータベース化し、大会準備委員がシンポジアムを企画立案する際の参考資料として活用します。

◎大会ワークショップについて

第86回大会より導入されたワークショップですが、第99回大会分は応募がありませんで

した。第100回大会（2028年開催）のワークショップの応募要領は学会ホームページ（<https://www.elsj.org>）に掲載しております。奮ってご応募ください。なお、第100回大会のワークショップ応募締め切りは、2027年4月末日です。

編集委員会からのお知らせ

◎投稿状況

『英文学研究』は、和文号（12月刊行）、英文号（3月刊行）の年各1冊という刊行形態となっており、これに応じてそれぞれ投稿締切が設定されています。昨年9月1日締切の英文号には24本の投稿論文が寄せられました。また、本年4月1日締切の和文号には16本の投稿論文が寄せられました。

◎第49回新人賞応募状況

第49回新人賞論文の応募受付は、去る4月30日をもって締切となりました。応募論文総数は9篇（英文学5篇、米文学4篇、英語学0篇）です。応募者のみなさまには心より感謝申し上げます。

今年度、第一次銓衡を通過したのは1篇（英文学）でした。第二次銓衡において慎重な議論を重ねた結果、残念ながら新人賞は「該当論文なし」となりましたが、坂元美樹也氏（東京大学文学部助教）の“*Ineffability and Incarnational Poetics in Old Possum's Book of Practical Cats*”が佳作に選ばれました。佳作論文には賞金5万円が授与されます。全体および各分野の選評は『英文学研究』和文号第103巻に掲載されます。

◎優秀論文賞について

この賞は『英文学研究』（和文号、英文号）

に掲載される論文の中から、特に優れた論文に授与されるものです。『英文学研究』第103巻においては、残念ながら「該当論文なし」となりました。

◎各種規程の変更について

2023年10月に論文投稿規程および新人賞規程が改訂され、2024年度の投稿から反映されています。論文を投稿・応募される方は、和文号第100巻以降の『英文学研究』雑録内および学会ウェブサイト上に掲載されている最新の投稿・応募規程に沿って論文をご作成いただきますようお願い申し上げます。主な変更点は下記の4点です。

- ① 共著論文は、共著者全員が会員であれば投稿可能である旨を明示しました。投稿・応募は会員一人につき論文1本とし、共著論文も論文1本と見なします。執筆者用抜刷は論文1本につき20部とします。
- ② 論文の投稿・応募者は、学会ウェブサイトより所定のGoogleフォームにアクセスし、必要事項をご記入の上で各投稿締切までにご送信くださいますようお願いいたします。なお、これに伴いカバーレターの提出は廃止されています。
- ③ 註はワープロソフトの註作成機能を使わずに本文と同じ書式で作成し、原稿の末尾にまとめて付ける旨を明示しました（日本語論文投稿規程(4)[3]および新人賞規程(5)[3]）。
- ④ 書式の細部についてはThe MLA Handbookなどの標準的なスタイルマニュアルの最新版に従う旨をより明確にしました（英語論文投稿規程(4)[2]および英語版新人賞規程5[2]）。

事務局からのお願い・ご報告

◎支部大会資料統合版の刊行停止について

支部大会資料統合版は引き続きウェブ掲載のみとなります。支部大会の開催日程、プログラム等については、本部および各支部のHPでご確認ください。

◎支部HPのhttps化ならびに本部HPのトラブルについて

現在、GoogleやMicrosoft等のhttpsファースト強化により、北海道支部のHP閲覧に支障をきたすケースが発生しております。本部HP等でお知らせしております通り、対象のウェブサイトをクリック後、ブラウザに表示されているURLのhttpsのsを削除し、Enterキーを押すことで問題が解消されることがあります。また可能であればFirefoxやSafari等、別のブラウザでの閲覧を試みていただきますようお願いいたします。会員の皆様にはご迷惑をおかけしており申し訳ありません。

また、本部HPにおいて、ページ内の形が崩れる現象が時折見られます。判明次第、不具合解消に努めておりますが、お急ぎの場合、eonline@elsj.orgまでお知らせいただけますと幸いです。

今後も鋭意対応してまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

◎今年度の大会について

2026年5月16日(土)・17日(日)、同志社大学今出川キャンパスにて第98回全国大会が対面開催されました。2日間ともに素晴らしい天気にも恵まれました。2日間にわたって、39の研究発表、12のシンポジア、そして最後に特別対談が行われました。

発表者、登壇者、講演者の皆さまには充実した発表をしていただき、また当日会員を含め本当にたくさんの方々が各地からご参加くださいました。発表者、講師、登壇者、司会者の皆さま、書店展示にご参加いただいた協賛会員の皆さま、そしてご参加いただいた会員の皆さまに厚く御礼申し上げます。

今回の運営上の反省点やアンケートでいただいたご意見は今後に活かしてまいりますので、さらなるご提言などありましたら、事務局 (ejimu@elsj.org) までお寄せください。

また、今大会の実現に向けて多大なご尽力を賜った2025年度の大会準備委員会の皆さまにも、この場を借りて御礼申し上げます。加えて、開催校の同志社大学の皆さま、開催支部の関西支部の支部委員の皆さまにも、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

◎来年度の大会について

すでに学会 HP およびメーリングリストでもお知らせしておりますように、来年の第99回大会は2027年5月29日(土)・30日(日)の両日に、愛知淑徳大学星が丘キャンパスにおいて開催されます(日程は予定)。開催校をお引き受けくださった愛知淑徳大学の皆様に、心より御礼申し上げます。

第99回大会も対面で開催されます。全国大会に関する最新情報は、学会 HP (<https://www.elsj.org/>) に掲載されますので、定期的にご確認くださいようお願いいたします。

なお、懇親会につきましても現在開催の方向で検討しております。こちらも決定次第学会 HP にてお知らせいたします。

◎全国大会期間中における託児所の開設について

開催校のご尽力により、全国大会期間中に託児業者に委託する形で、託児所が開設される予定です。詳細や申し込み方法等は、決まり次第学会 HP 上で告知いたします。

◎ハラスメント相談窓口について

2024年6月4日に理事会にて承認されました「日本英文学会ハラスメント防止ガイドライン」に則り、Adecco 株式会社のハラスメントダイヤルに外部委託するかたちで、2025年度4月よりハラスメント相談窓口を開設しております。相談窓口のご利用を検討中の方は、本ウェブサイトの情報公開欄から、「ハラスメントダイヤル告知チラシ(日本英文学会)」をダウンロードしてください。このファイルにはパスワードが付されております。2026年度のパスワードは、3月に郵送いたしましたニューズレター(大会資料に付属)に掲載されております。オンラインでのパスワード拡散防止のため、ウェブサイトに掲載しているPDF版ではパスワードをご確認いただけませんので、ご注意ください。

◎メーリングリストによる学会情報の配信について

現在、学会活動に関する情報は随時メーリングリストを通じて会員の皆様に一斉配信しております。メーリングリストは会員管理システム SMOOSY と連動しております。メールアドレスに変更のある方は、SMOOSY「マイページ」より登録情報の更新をお願いいたします。なお、学会活動に関する情報はこれまで通り学会 HP にも掲載いたします。

◎会費納入と刊行物発送について

日本英文学会の2026年度会費は、例年通り、一般会員8,000円（本部会費7,000円＋支部会費1,000円、ただし複数支部に加入の場合は1支部ごとに1,000円追加）、学生会員5,000円（本部会費4,000円＋支部会費は一般会員に同じ）、協賛会員10,000円です。退会届が出されない限り、会費の納入が滞っても、2年間は引き続き刊行物をお送りいたします。今年度中に2年度分の会費の納入がなかった場合は、2027年3月末をもって会員資格を失うこととなります。資格を失ったのちも、未納分の会費については支払い義務があり、その分をお支払いいただかない限り再入会できませんので、ご注意ください。

ご自身の会費納入状況が不確かな場合には、HPのお問い合わせフォーム（<https://www.elsj.org/inquiry/>）にて事務局までご連絡ください。重複して会費を支払われますと、払い戻しなどに余分な手数料がかかってしまいますのでご注意ください。

会費の納入忘れを避けるためにも、SMOOSY「マイページ」からのクレジットカード自動継続決済のご利用を強くお勧めしております。ご不明な点がございましたら、お問い合わせフォーム（<https://www.elsj.org/inquiry/>）よりご連絡ください。

なお、66歳以上の会員を対象とした終身会員制度を設けております。詳細につきましては、学会HP（<https://www.elsj.org/>）の「入会案内」から「終身会員制度ご案内」をご覧ください。ほか、メールで事務局（ejimu2@elsj.org）までお尋ねください。

◎会員著書案内について

2012年4月より、会員の皆様から事務局宛

てにご著書を献本いただいた場合、学会HPに著書紹介を掲載できるようにいたしております。著書は会員独自の研究成果に限り、訳書等は対象外とさせていただきます。掲載期間は、掲載開始日から2年間です。また、著書案内に掲載された著書については、『英文学研究』編集委員会において書評対象の候補として検討させていただきます。

掲載をご希望の方は、以下の情報を事務局（ejimu2@elsj.org）までWORDの添付ファイルにてお寄せください。もし可能でしたら、こちらのテンプレート（<https://www.elsj.org/books/format.html>）の通りにお願いいたします。

1. 著書のタイトル、出版社、出版年
2. 著書の内容の梗概1,200字程度
3. 目次

この会員著書案内欄には、2026年7月末の時点で55冊が紹介されております。ぜひご覧ください。

◎海外研究者招聘後援事業について

日本英文学会では、2011年6月1日より、日本における英文学研究の国際化促進のために、海外研究者招聘後援事業を実施しています。詳細は学会HP（<https://www.elsj.org/>）の「沿革・情報公開」から「海外研究者招聘後援事業規程」をご覧ください。同規程に該当する企画をお持ちの団体による応募を歓迎いたします。どうぞふるってご応募くださいますようお願いいたします。応募する団体は申請書類を事務局（ejimu@elsj.org）宛てメールにてお送りください。

◎次回のNewsletterについて

次回のNewsletterは、2027年3月中旬刊行予定の『第99回大会資料』の巻末に掲載され

る予定です。それまでの間に、大会開催形態を含めてお知らせすべき情報は、随時、学会 HP やメーリングリストを通じてお知らせしますので、定期的にご確認くださいようお願いいたします。

◎その他

本年 5 月末をもって、前任の秦邦生事務局長、広本優佳会計担当補佐、友田奈津子大会準備担当書記、加太康孝編集担当書記が退任されました。それぞれのご所属大学での研究教育業務が多忙を極めるなか、英文学会の運営にも献身的にご尽力くださり、膨大な業務と数々の困難に、非常に優れた判断力と粘り強さで対処してくださいました。また、2024 年度より法人契約を結んで業務委託をしておりました北島山編集室の樋口真理氏、津田正氏は本年 4 月末をもって契約満了により退職されました。無数の事務業務を一手に引き受け、豊富なお経験を惜しみなく学会のために注いでくださいました。この場をお借りして、退任・退職された皆様に心より御礼申し上げます。また、前任の皆様のご尽力のおかげで会員管理システム SMOOSY の新規導入ができたこと、新事務局としては SMOOSY を通して事務局業務のさらなる効率化を目指す所存であることも付記いたします。

またこの交代に先立って、4 月より新たに佐美真理（事務局長補佐）、中戸照恵（経理）、井上和樹（経理補佐）、松本望希（大会準備担当書記）、山根亮一（編集担当書記）5 名が事務局に入りました。昨年度の事務局長補佐から事務局長に異動となりました田代尚路、昨年度より引き続きオンライン補佐を担当する瀧川宏樹とともに、7 名の体制で本年度の事務局運営に携わるようになりました。任期は来年度の全国大会が終わる 5 月末までとなります。2025 年

度から継続して有能なアルバイト職員 2 名にも支えられ、阿部公彦会長のもと、力を合わせて会員の皆様の研究環境がよりよいものとなりますよう努めてまいりたいと存じます。至らぬ点多々あることかと懸念しておりますが、会員の皆様におかれましてはご指導・ご協力のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

日本英文学会事務局

田代尚路・佐美真理・中戸照恵・井上和樹・

松本望希・山根亮一・瀧川宏樹